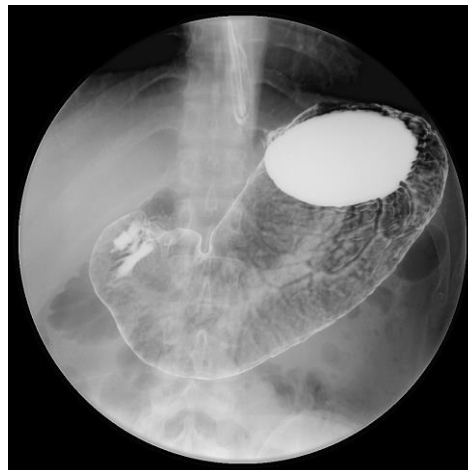




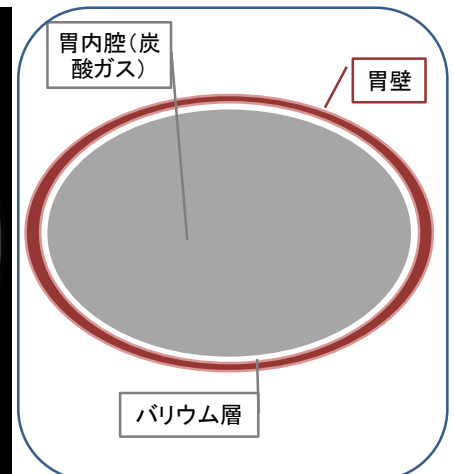
## 胃 X 線 検 査 に つ い て

人間ドックや検診で広く行われている撮影法は、二重造影と呼ばれる方法で、日本で開発されました。この技術により日本は数多くの早期がんを発見し、胃がんの分野で世界をリードするようになりました。胃 X 線検査を理解し正しく受ければ胃がんを早期に発見することが可能です。

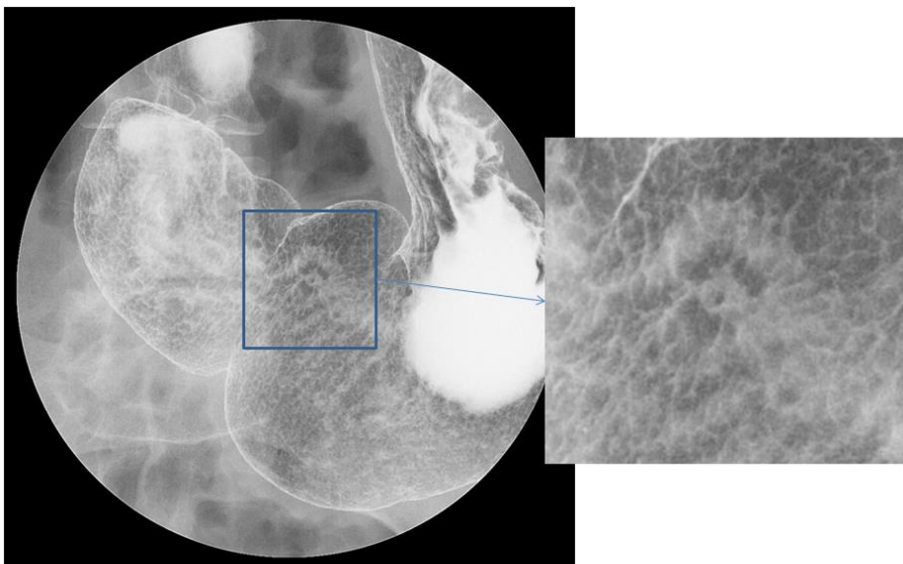
二重造影法とは、炭酸ガスで胃を膨らませて粘膜を広げます。広げた粘膜にバリウムを薄く付着させて、胃粘膜の凹凸を写し出す検査です。



胃二重造影像



胃二重造影イメージ図



早期胃がん (8mm)

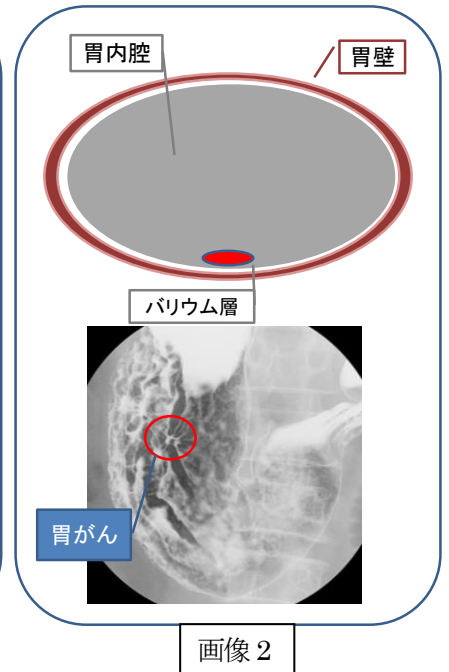
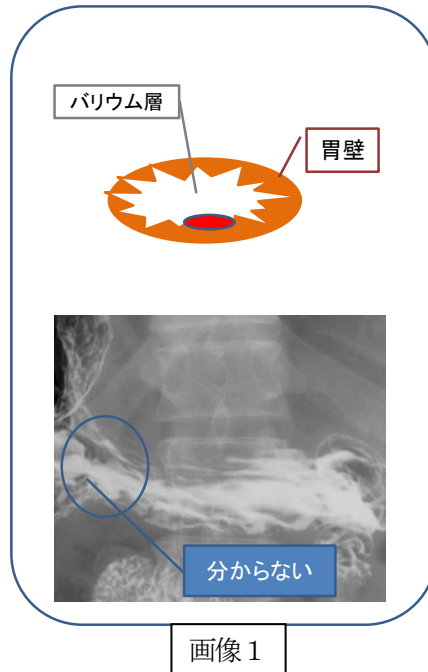
二重造影法では胃粘膜にできる早期がんを写し出せます。左の画像は、直径 8mm の早期胃がんです。

胃 X 線検査で早期胃がんを写すには、

① 胃を膨らますこと ② 撮影台の上でぐるぐる回ること がポイントです。

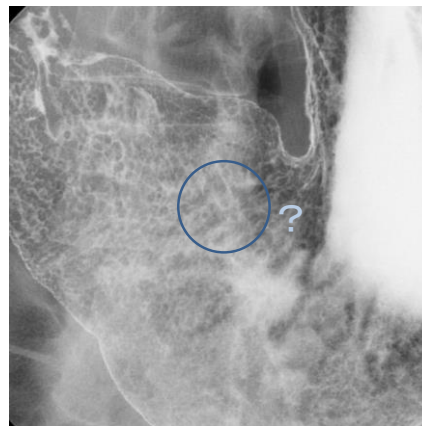
### ① 胃を膨らますこと

画像 1 と画像 2 は同じ胃です。画像 1 の状態では、胃がしわしわで小さく縮んでいて病変があっても写りません。病変をよく写し出すためには、画像 2 のように炭酸顆粒を服用し、炭酸ガスを発生させて胃を膨らませます。ゲップを出してしまうと胃が小さく縮んで病変が写らなくなりますので、ゲップは我慢してください。



### ② 体を動かすこと

胃粘膜面には粘液が付着しており、バリウムを服用しただけではバリウムは付着しません。そこで体を右に回転させて胃内でバリウムを動かして胃粘膜に付着している粘液を剥がし、同時にバリウムを付着させます。



バリウムの服用下だけでは病変は写っていない

体を動かして胃粘膜の粘液を剥がして、バリウムを付着させると病変が明瞭に写る

胃を膨らましてゲップを我慢するのも、体をグルグル動かすのも胃がんの早期発見には重要なことであり、受診者皆様の協力が必要となります。当院では、日本消化器がん検診学会の認定を受けた胃がんX線検診専門技師が検査を担当し、精度の高い検査を提供しております。

検査の予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp